

体外衝撃波疼痛治療（ESWT）と同意書

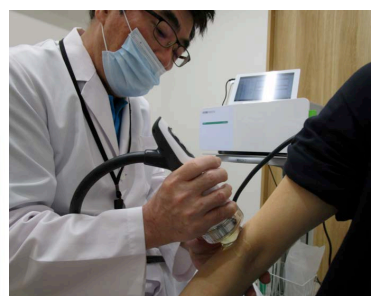
衝撃波を傷ついた組織に照射することで患部（足底腱膜炎・テニス肘・肩の石灰性腱炎などで痛みのあるところ）に微細損傷を作り、本来生体が持っている組織の治癒能力を高め『除痛効果と組織修復』が期待できる整形外科領域では新しい治療法です。衝撃波を当てることにより患部の痛みの原因となっている有害な神経線維を減らし、細胞の骨形成や血管新生、腱修復反応を促進します。また炎症の要因となっている各種のMMPやILなどのサイトカインの発現も抑制します。体操男子の内村航平選手が世界選手権直前に行い、右足の靭帯損傷を短期間で治療したことも知られています。体外衝撃波疼痛治療装置には収束型と拡散型があります。当院では最新機種の収束型体外衝撃波疼痛装置「デュオリスSD1ウルトラ」を導入しています。



収束型は、収束した範囲にエネルギーを与えるため、患部のみにエネルギー強度を高く照射することが可能（治療効果が高い）です。腱附着部炎ではより治療効果を高めることが可能です。超音波エコーで病変部を照射前にマーキングし正確にターゲティングして治療を行います。

☆ 治療の特徴

- 1回の治療時間は約10-15分ほどで、麻酔などは不要です。
- 治療頻度は1～2週に1回で原則3回ほど行います（疾患により照射間隔は異なります）。
- 施行後1ヶ月間ほど組織修復を待ち、その時点で痛みが残る場合は再開することもあります。悪化が見られた場合は途中で中止することもあります。
- 疼痛のある部位にピンポイントで照射するため、軽い痛みを伴いますが患者様が我慢できる範囲で出力を少しずつ上げて行きます（出力が高い方がより効果があるため）。



- **安全性と守っていただきたいこと** 治療後に発赤や皮下出血が照射部位に出現することがありますが、数日以内に改善が見られます。ただし当てた部位の組織に細かな傷を与えるので治療当日は安静にされて下さい。人によっては治療後から翌日にかけて痛みが出ることもありますので翌日までは痛み止めのお薬などで様子を見て下さい。治療期間中は痛みを感じなくなっても激しい運動はしないでください。組織修復の途中で急な激しい運動をすると再受傷する恐れがあります。
- **治療を受けることができない方** ペースメーカーなどの電磁場障害の影響を受けやすい医療機器を植え込んでいる患者様、悪性腫瘍、心疾患、高度の知覚障害がある方

<保険診療の対象になるもの>

難治性の足底腱膜炎

6ヶ月以上の保存療法（内服薬、湿布、インソール等）の治療を行っても痛みが改善しない方

<保険診療の対象にならないもの（自由診療）> *国際整形外科体外衝撃波学会（ISMST）

- ・ 足部：足底腱膜炎、アキレス腱炎、アキレス腱付着部炎
- ・ 膝：膝蓋腱炎（ジャンパー膝）
- ・ 肘：上腕骨外上顆炎（テニス肘・ゴルフ肘）
- ・ 肩：石灰沈着性腱板炎（石灰性腱炎）・腱板炎
- ・ 骨折：疲労骨折・偽関節・骨折遷延治癒

その他：国内外の学会や研究会では、小児骨端症（オスグッド病・シーバー病）、ばね指、各種腱鞘炎、有痛性外脛骨、分裂膝蓋骨、シンスプリント、などにも有効である報告がされています。

☆ 費用

<保険診療>

難治性足底腱膜炎の場合：50,000円（週に1回、計3回照射の費用）

※窓口での自己負担額は1～3割となります。

※50,000円×1～3割=5,000～15,000円

<自費診療（自由診療）>

初回（税抜）：15,000円 2回目以降（税抜）：5000円（1回につき）

☆ 体外衝撃波治療をご希望の方へ

はじめに医師（担当は橋本院長）の診察を受けて頂き、レントゲン検査や超音波エコーでの検査を行い、治療が適応になるかを判断させていただきます。同意書を施行前にいただきます。

同意書

医療法人社団SEISEN
清泉クリニック整形外科 殿

私は、清泉クリニック整形外科において「体外衝撃波による治療の内容・安全性・費用」などについて説明を理解し、治療を受けることに同意します。

令和 年 月 日

患者氏名

説明医師 清泉クリニック整形外科院長 橋本 卓
